

63. 加撚ネットロウシルク織物の試作

福島県蚕業試験場養蚕部・平成11年度県福島県蚕業試験場年報

1 部門名 蚕糸－絹糸－加工

分類コード 09－04－34000000

2 担当者 瓜田章二・赤澤航次郎

3 要 旨

新形質生糸であるスパンロウシルク及びネットロウシルクのニット製品の試作を行って来たが、依然として擬似羊毛の感を拭えず、絹らしさの特徴を醸し出せないところがあるため、ピリングを抑制し、糸条に弾力を与えるべく撚糸を加えることと思量された。そこで、カバーリング装置を撚糸可能な小枠巻取り装置に改造し、これにより得られたネットロウシルクを用いて織物(白生地)を機織り試作した。

カバーリング装置の撚糸可能小枠巻取り装置への改造は、基本コンセプトを千葉産商(有)に示して行った。織物の試作は、伊達郡川俣町三浦氏及び氏家氏に依頼し、いずれも手織り白生地後練りであり、三浦氏は3点、氏家氏は1点とした。

加撚装置への改造は、撚糸数を100及び130回／mになるようにセッティングしたところ、目的の撚糸数の糸条物が得られた。

機織りの結果では、三浦氏の試作した中で、フランス織り(縞が斜めに入る)が異色な出来栄であった。柔らかい感触であり、この縞模様が独特の雰囲気醸し出し、三浦氏自身も高く評価していた。他の試作品もまずまずのできで、経、緯とも本ネットロウシルクを適用しているところに価値があると思われた。また、氏家氏は1点ながら素晴らしいものであった。経は普通生糸であるが、緯に本ネットロウシルクと若干の玉糸を適用したもので、厚手にもかかわらずシャリ感が旺盛で、かつ弾力のある仕上がりで、やはりシルクとして異色の余韻であった。